

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2009/10年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、世界的に増産となった前年度より収穫面積が減少することなどから、世界的な生産量の減少が見込まれている。

需要面では、堅調な食料用需要の増加が、飼料用需要の減少を上回り、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、2年連続して生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も増加し、世界の小麦需給は緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、豊作であった前年度と比較して、市場価格の低下や経済の減退による影響から収穫面積が減少すること等から、オーストラリアでは増産となるものの、EU、米国、ロシア等で減産となり、世界全体では前年度より25.1百万トン減少（▲3.7%）し、657.6百万トンとなる見込みである。

【消費量】

消費量は、食料用需要を中心にインド等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より6.6百万トン増加（1.0%）し、642.3百万トンとなる見込みである。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、6.1百万トン減少（▲4.7%）し、123.7百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではカナダやオーストラリア等で増加するものの、ウクライナ、EU、米国等で輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、インドネシアで輸入量の増加、モロッコ、ブラジル等で輸入量の減少が見込まれている。

【期末在庫量】

期末在庫量は、2年連続で生産量が消費量を上回ることから、中国、インド等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より14.8百万トン増加（8.9%）し、181.9百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も28.3と増加する見込みである。

表-1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	609.7	682.7	657.6	...	▲ 3.7
EU-27	120.2	151.6	138.2	...	▲ 8.8
中国	109.3	113.0	113.0	...	0.0
インド	75.8	78.6	77.5	...	▲ 1.4
ロシア	49.4	63.7	58.0	...	▲ 8.9
米国	55.8	68.0	55.1	...	▲ 18.9
カナダ	20.1	28.6	26.0	...	▲ 9.1
オーストラリア	13.8	21.5	23.0	...	7.0
消費量	616.6	635.7	642.3	...	1.0
うち飼料用	96.2	115.5	111.5	...	▲ 3.4
EU-27	116.5	127.5	127.5	...	0.0
中国	106.0	102.5	101.0	...	▲ 1.5
インド	76.3	70.3	72.5	...	3.1
ロシア	37.7	41.2	40.5	...	▲ 1.7
米国	28.6	34.0	34.6	...	1.8
パキスタン	22.4	22.8	23.3	...	2.2
トルコ	16.8	16.9	17.0	...	0.6
貿易量	117.5	129.8	123.7	...	▲ 4.7
(輸出)				...	
米国	34.4	27.5	24.5	...	▲ 10.9
EU-27	12.3	22.0	18.0	...	▲ 18.2
カナダ	16.4	16.8	17.5	...	4.2
ロシア	12.6	17.0	17.5	...	2.9
オーストラリア	7.5	14.0	15.5	...	10.7
ウクライナ	1.2	12.0	6.0	...	▲ 50.0
アルゼンチン	11.2	4.5	5.5	...	22.2
(輸入)				...	
エジプト	7.7	8.5	8.5	...	0.0
EU-27	6.9	6.5	6.5	...	0.0
ブラジル	6.7	6.0	5.7	...	▲ 5.0
インドネシア	5.5	5.3	5.5	...	3.8
日本	5.7	5.5	5.5	...	0.0
アルジェリア	5.9	5.6	5.4	...	▲ 3.6
モロッコ	4.2	3.5	1.8	...	▲ 48.6
期末在庫量	120.1	167.1	181.9	...	8.9
中国	39.0	48.9	59.6	...	21.9
EU-27	12.4	21.0	20.2	...	▲ 3.6
米国	8.3	18.2	17.3	...	▲ 4.8
インド	5.8	13.9	16.9	...	21.6
ロシア	1.8	7.5	7.8	...	4.0
カナダ	4.6	7.5	7.5	...	0.0
オーストラリア	4.7	5.5	6.0	...	9.6
期末在庫率	19.5%	26.3%	28.3%	...	2.0

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より12.9百万トン減少（▲18.9%）し、55.1百万トンとなる見込みである。

消費量は、食料用需要の増加が見込まれることから前年度より0.6百万トン増加（1.8%）し、34.6百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から3.0百万トン減少（▲10.9%）し、24.5百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に増加した期末在庫量は、0.9百万トン減少（▲4.8%）減少し、17.3百万トンとなり、期末在庫率は29.3%（0.3ポイント減）となる見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦の作柄は、優良が10%と前年度の同時期や最終と同等程度であるが、優良～普通までの合計では74%と前年度の最終の76%を2ポイント下回っている。また、収穫面積は、2008/09年度より2.2百万ha減少（▲14%）し、13.8百万haとなっている。

出穂率は主要18州平均で56%とで平年（過去5年の平均）より4ポイント遅れているが、前年よりは9ポイント進んでいる。オクラホマ州、テキサス州等で干ばつの影響から、冬小麦の作柄に影響が出ている。

2009/10年度の春小麦については、雨がちな天候からノースダコタ州等で作付けが遅れたことから、発芽率も主要6州で21%と平年（過去5年の平均）に比べて38ポイント、前年に比べて29ポイント遅れており、生育期の天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 1位（2008年数量ベース63.3%）
世界の生産量シェア 5位（2009/10年度 8.4%）
輸出量シェア 1位（2009/10年度 19.8%）

表－2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	55.8	68.0	55.1	...	▲ 18.9
消費量	28.6	34.0	34.6	...	1.8
うち飼料用	0.4	6.8	6.5	...	▲ 4.0
輸 出 量	34.4	27.5	24.5	...	▲ 10.9
輸 入 量	3.1	3.4	3.1	...	▲ 7.9
期末在庫量	8.3	18.2	17.3	...	▲ 4.8
期末在庫率	13.2%	29.6%	29.3%	...	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	20.64	22.54	19.79	...	▲ 12.2
単収(t/ha)	2.70	3.02	2.79	...	▲ 7.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗及び作柄(5月17日現在)

〔生育進捗状況（2009/10年度冬小麦、2009/10年度春小麦）

冬小麦(主要18州)

出穂率 56%（平年差：▲4 p、前年差：+9 p）

春小麦(主要6州)

作付率 50%（平年差：▲40 p、前年差：▲42 p）

発芽率 21%（平年差：▲38 p、前年差：▲29 p）

〔作柄（2009/10年度冬小麦：主要18州）〕

		単位:%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2009/10	10	38	26	13	13
	前年度同時期	9	36	31	15	9
	前年度最終	10	36	30	14	10

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、収穫面積は前年並みであるが、豊作であった前年度と比べて単収が減少することから、2.6百万トン減少（▲9.1%）し、26.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の減少から前年度より0.4百万トン減少（▲4.2%）し、8.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン増加（4.2%）し、17.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、前年度並みの7.5百万トンとなり、期末在庫率は、28.6%（0.4ポイント減）となる見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の作付けの進展については、5月中旬現在、半分弱程度で、昨年度より遅れている。サスカチュワン州やアルバータ州の一部で、降水量が少なく、土壌水分が不足しており、今後の天候に注視が必要である。

〔我が国の輸入先国シェア2位（2008年数量ベース20.4%）
世界の生産量シェア6位（2009/10年度4.0%）
輸出量シェア3位（2009/10年度14.1%）〕

表－3 カナダの小麦需給（市場年度：8月～翌年7月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	20.1	28.6	26.0 (25.9)	…	▲ 9.1
消費量	6.4	9.2	8.8 (8.7)	…	▲ 4.2
うち飼料用	2.1	4.4	3.9 (3.9)	…	▲ 11.4
輸出量	16.4	16.8	17.5 (17.5)	…	4.2
輸入量	0.4	0.4	0.3 (0.0)	…	▲ 14.3
期末在庫量	4.6	7.5	7.5 (6.4)	…	0.0
期末在庫率	20.0%	29.0%	28.6% (24.4%)	…	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	8.64	10.03	10.00 (9.97)	…	▲ 0.3
単収(t/ha)	2.32	2.85	2.60 (2.60)	…	▲ 8.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (April 30, 2009)」

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、前年度に引き続いて増産となり、1.5百万トン増加（7.0%）し、23.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用需要の増加等から前年度より0.3百万トン増加（3.7%）し、7.1百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加から1.5百万トン増加（10.7%）し、15.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン増加（9.7%）し、6.0百万トンと積み増しされ、期末在庫率は26.6%（0.3ポイント増）となる見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の作付けについては、産地で降雨があったため、作付けが開始された。今後の天候に注視が必要である。

〔我が国の輸入先国シェア3位（2008年数量ベース16.1%）
世界の生産量シェア8位（2009/10年度3.5%）
輸出量シェア5位（2009/10年度12.5%）〕

表－4 オーストラリアの小麦需給（市場年度：10月～翌年9月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.8	21.5	23.0 (…)	…	7.0
消費量	6.2	6.8	7.1 (…)	…	3.7
うち飼料用	3.5	3.8	4.0 (…)	…	6.7
輸出量	7.5	14.0	15.5 (…)	…	10.7
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	…	0.0
期末在庫量	4.7	5.5	6.0 (…)	…	9.7
期末在庫率	34.2%	26.3%	26.6% (…)	…	0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	12.70	13.50	13.00 (…)	…	▲ 3.7
単収(t/ha)	1.09	1.59	1.77 (…)	…	11.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (February 2009)」

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、過去最高の生産量であった前年度と比較して油糧種子への転換等から収穫面積が減少すると見られ、前年度より13.4百万トン減少（▲8.8%）し、138.2百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度並みの127.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少等から4.0百万トン減少（▲18.2%）し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.8百万トン減少（▲3.6%）し、20.2百万トンとなり、期末在庫率も13.9%（0.1ポイント減）となる見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦に関し、スペイン等で乾燥した気候となっており、今後の天候に注視する必要がある。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、冬期の乾燥により単収が前年より低下するが、収穫面積が増加することから、前年並みの113.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の減少等から前年度より1.5百万トン減少（▲1.5%）し、101.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.7百万トン増加（100.0%）し、1.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は10.74百万トン増加（21.9%）し59.6百万トンとなり、期末在庫率も58.2%（10.8ポイント増）と上昇する見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦については、干ばつが発生していたものの、2月以降降雨があり、見通しが改善されている。なお、小麦赤さび病の被害を受けた面積が昨年より拡大する見込みであり、引き続き、収穫期の天候に注視が必要である。

【貿易情報】2007年12月に輸出還付を取り消し2008年1月から輸出税を賦課しているが、輸出税率が2008年12月より引き下げられている（20%→3%）。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

世界の生産量シェア1位（2009/10年度 21.0%）
輸出量シェア2位（2009/10年度 14.5%）

表－5 EU-27の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	120.2	151.6	138.2 (140.7)	…	▲ 8.8
消費量	116.5	127.5	127.5 (…)	…	0.0
うち飼料用	52.4	61.0	60.0 (…)	…	▲ 1.6
輸出量	12.3	22.0	18.0 (…)	…	▲ 18.2
輸入量	6.9	6.5	6.5 (…)	…	0.0
期末在庫量	12.4	21.0	20.2 (…)	…	▲ 3.6
期末在庫率	9.6%	14.0%	13.9% (…)	…	▲ 0.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.78	26.94	25.82 (26.00)	…	▲ 4.2
単収(t/ha)	4.85	5.63	5.36 (5.41)	…	▲ 4.8

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (30 April 2009)」

(世界の生産量シェア2位（2009/10年度 17.2%）)

表－6 中国の小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	109.3	113.0	113.0 (104.0)	…	0.0
消費量	106.0	102.5	101.0 (…)	…	▲ 1.5
うち飼料用	8.0	5.0	4.0 (…)	…	▲ 20.0
輸出量	2.8	0.8	1.5 (…)	…	100.0
輸入量	0.1	0.2	0.2 (…)	…	0.0
期末在庫量	39.0	48.9	59.6 (…)	…	21.9
期末在庫率	35.8%	47.4%	58.2% (…)	…	10.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.72	24.00	24.10 (23.50)	…	0.4
単収(t/ha)	4.61	4.71	4.69 (4.43)	…	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (30 April 2009)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、過去最大の生産量であった前年度より1.3百万トン減少（▲1.4%）し、77.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より2.2百万トン増加（3.1%）し、72.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より1.8百万トン増加（900.0%）し、2.0百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度と同じ0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、3.0百万トン増加（21.6%）し、16.9百万トンとなり、期末在庫率も22.7%（3.0ポイント増）と上昇する見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦は、主産地のパンジャブ州で雨がちな天候だったこと等が影響して収穫が遅れた。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、豊作であった前年度と比較して単収が減少することから、前年度より5.7百万トン減少（▲8.9%）し、58.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.7百万トン減少（▲1.7%）し、40.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、0.5百万トン増加（2.9%）し、17.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.3百万トン増加（4.0%）し、7.8百万トンとなり、期末在庫率も13.4%（0.6ポイント増）と上昇する見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、収穫面積は減少したが、一部の冬枯れを除いて、作柄は良好な見通しである。2009/10年度の春小麦は、降雨により南部ロシアで作付けが遅れたこと等から、単収が減少する見込みである。

【貿易情報】

2008年7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア3位（2009/10年度 11.8%））

表-7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	75.8	78.6	77.5 (78.0)	…	▲ 1.4
消費量	76.4	70.3	72.5 (…)	…	3.1
うち飼料用	0.2	0.1	0.1 (…)	…	0.0
輸 出 量	0.1	0.2	2.0 (…)	…	900.0
輸 入 量	1.9	0.0	0.0 (…)	…	▲ 100.0
期末在庫量	5.8	13.9	16.9 (…)	…	21.6
期末在庫率	7.6%	19.7%	22.7% (…)	…	3.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	28.00	28.15	27.80 (28.40)	…	▲ 1.2
単収(t/ha)	2.71	2.79	2.79 (2.75)	…	0.0

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (30 April 2009)」

（世界の生産量シェア4位（2009/10年度 8.8%）
輸出量シェア4位（2009/10年度 14.1%））

表-8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.4	63.7	58.0 (52.0)	…	▲ 8.9
消費量	37.7	41.2	40.5 (…)	…	▲ 1.7
うち飼料用	15.1	17.2	16.0 (…)	…	▲ 7.0
輸 出 量	12.6	17.0	17.5 (…)	…	2.9
輸 入 量	0.4	0.2	0.3 (…)	…	100.0
期末在庫量	1.8	7.5	7.8 (…)	…	4.0
期末在庫率	3.6%	12.8%	13.4% (…)	…	0.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.50	26.70	27.20 (25.50)	…	1.9
単収(t/ha)	2.02	2.39	2.13 (2.04)	…	▲ 10.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain : World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (30 April 2009)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、収穫面積は減少するものの、単収が平年並に回復することから前年度より2.6百万トン増加（31.0%）し、11.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（2.0%）し、5.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから1.0百万トン増加（22.2%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン増加（82.1%）し0.7百万トンとなり、期末在庫率も6.6%（2.5ポイント増）と上昇する見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の小麦の作付については、主要産地での激しい干ばつにより播種が遅れている。今後の天候に注視する必要がある。

【貿易情報】

輸出登録手続きは2008年9月中旬から、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため停止しており、手続きの再開時期は未定である。

また、農家は政府の農業政策に抗議しており、3月には大豆の輸出税引き下げを求めて穀物の売却を拒否するストライキを行った。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、豊作であった前年度と比較して、単収が平年並みに減少し、収穫面積が減少すること等から、前年度より6.9百万トン減少（26.6%）し、19.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.6百万トン減少（▲4.3%）し、13.4百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから6.0百万トン減少（50.0%）し、6.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は0.3百万トン減少（▲20.4%）し1.2百万トンとなるが、輸出量が減少するため、期末在庫率は6.0%（0.3ポイント増）となる見込みである。

【生育進捗状況及び作柄】

2009/10年度の冬小麦は、5月の乾燥した気候により影響を受け、生産量が減少すると見込まれている。

2009/10年度の春小麦については、作付は4月に終了したが、5月後半以降の乾燥により生産量が減少する見込みである。今後の生育期の天候に注視する必要がある。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

(世界の輸出量シェア 8 位 (2009/10年度 4.4%))

表-9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	16.8	8.4	11.0 (13.0)	…	31.0
消費量	5.1	5.1	5.2 (…)	…	2.0
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (…)	…	0.0
輸出量	11.2	4.5	5.5 (…)	…	22.2
輸入量	0.0	0.0	0.0 (…)	…	…
期末在庫量	1.5	0.4	0.7 (…)	…	82.1
期末在庫率	9.4%	4.1%	6.6% (…)	…	2.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.76	4.20	4.00 (5.00)	…	▲ 4.8
単収(t/ha)	2.92	2.00	2.75 (2.60)	…	37.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (30 April 2009)」

(世界の輸出量シェア 7 位 (2008/09年度 4.8%))

表-10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2007/08	2008/09 (見込み)	2009/10		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	13.9	25.9	19.0 (18.9)	…	▲ 26.6
消費量	12.9	14.0	13.4 (…)	…	▲ 4.3
うち飼料用	3.1	4.0	3.6 (…)	…	▲ 10.0
輸出量	1.2	12.0	6.0 (…)	…	▲ 50.0
輸入量	0.3	0.1	0.1 (…)	…	0.0
期末在庫量	1.5	1.5	1.2 (…)	…	▲ 20.4
期末在庫率	10.4%	5.7%	6.0% (…)	…	0.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.95	7.05	6.60 (6.50)	…	▲ 6.4
単収(t/ha)	2.34	3.67	2.88 (2.91)	…	▲ 21.5

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」
IGC 「Grain Market Report (30 April 2009)」